

平成二十七年六月二日（火曜日）（未定稿）

午前十時開会

○委員長（水落敏栄君） ただいまから文教科学委員会を開会いたします。

委員の異動について御報告いたします。

昨日、那谷屋正義君が委員を辞任され、その補欠として蓮舫さんが選任されました。

○委員長（水落敏栄君） 政府参考人の出席要求に関する件についてお諮りいたします。

教育、文化、スポーツ、学術及び科学技術に関する調査のため、本日の委員会に、理事会協議のとおり、内閣官房2020年オリンピック・パラリンピック東京大会推進室室長代理兼文部科学省スポーツ・青少年局長久保公人君外五名を政府参考人として出席を求め、その説明を聴取することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（水落敏栄君） 御異議ないと認め、さよう決定いたします。

○委員長（水落敏栄君） 参考人の出席要求に関する件についてお諮りいたします。

教育、文化、スポーツ、学術及び科学技術に関する調査のため、本日の委員会に、理事会協議のとおり、独立行政法人日本スポーツ振興センター

理事長河野一郎君外一名を参考人として出席を求め、その御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（水落敏栄君） 御異議ないと認め、さよう決定いたします。

○委員長（水落敏栄君） 教育、文化、スポーツ、学術及び科学技術に関する調査を議題とし、質疑を行います。

質疑のある方は順次御発言願います。

○蓮舫君 民主党の蓮舫です。

二〇二〇年東京オリンピック・パラリンピックまであと五年となりました。成功するために最大限の努力あるいは協力をさせていただきたいと思っておりますが、余りにも情報公開が不徹底で不透明で不信感だけが募っている現状ではないかと思っております。

まず、大臣、お伺いしますが、開閉式を行うメイン会場、新国立競技場の屋根を先送りをする、オリンピックが終わった後に付ける、あるいは自動式の椅子を仮設で手動にする、これなぜでしょうか。

○国務大臣（下村博文君） おはようございます。国立競技場の整備につきまして、独立行政法人日本スポーツ振興センター、JSCにおきまして昨年八月から実施計画を行っており、その中で、

設計者側から、二〇一九年春に竣工させるためには整備内容の一部についての工夫、見直しを行う必要があるとの意見が出されたとの報告がこの四月にありました。

政府としては、ラグビーワールドカップ、オリンピック・パラリンピックを開催するには二〇一九年春の竣工が必須条件であるというふうに考えておりまして、それをクリアするためには、開閉式遮音装置の二〇二〇年大会閉幕後の施工、つまり、この開閉式遮音装置というのは、ラグビーやあるいはオリンピック・パラリンピックで必要な装置ではなく、その後、この国立競技場を有効活用すると。これまでは騒音問題がありまして、年に一、二回しかそのようなコンサート等ができませんでした。これができるためには、開閉式遮音装置ができればやれるということで、これはオリンピック以降の元々対応でしたから、そのようにすることによって間に合わせるような期日設定。

それから、可動式、これは最大八万席のうちの約一・五万席を想定しておりますが、常設、これは電動伸縮方式であります。これを仮設、簡易型の着脱装置、この変更をすることによってコスト削減が図られるということでありまして、そういう観点から検討を行っているところであります。今後とも、二〇一九年春の竣工に万全を期すべく、文科省としても対応してまいりたいと考えて

おります。

○蓮舫君 JSCに伺います。

二年前の秋に東京オリンピックの招致が決定しました。そのときに、メイン会場の新国立競技場は、屋根を付けたデザインで申請をしていましたか。

○参考人(河野一郎君) 河野でございます。

今お話しのように、立候補ファイルには、現在の今御指摘のような屋根が付いた形で載っているというふうに理解をしております。東京都が各方面からの了解を取りながら出したものと思います。○蓮舫君 つまり、大臣はラグビーワールドカップ、東京オリンピックは屋根がなくても構わないから先送りすると説明をしたんですが、IOCに東京オリンピックで招致をしたときのファイルは屋根が付いている形で許可をいただいているんです。

さらに、JSCに伺いますけれども、屋根先送り、これ工期が間に合わない。手動式に椅子を変える、一万五千席、これ電動だったものを手動式に変える。理由を聞いたら、六か月工期が掛かるから、ここを削つたらぎりぎり間に合うだろう、しかも、今まだ見直しをする箇所を検討しているといいますが、あとどれくらい出てくるんですか。○参考人(河野一郎君) 見直しについての御質問と思えます。

御案内のように、新国立競技場の基本設計につきましては、既に競技団体と東京都の御了解をいただきまして、昨年の五月に完了しております。その後、今御指摘もありましたけれども、二〇二〇年のオリンピック・パラリンピック大会につきましては、本年の二月までIOCから調査委員会などが来日されてプロジェクトビューが行われ、そこでいろいろな提案をいただいて、現在の実施設計についても調整をして、なるべくいい大会にできるように努力をしているところでございます。

また、同時に、これも御案内のように、三月にラグビーのワールドカップの十二会場が決まりました。そして、そこでもメイン会場として新国立競技場が正式に決まったわけです。そして、今、決定したということから、ワールドラグビーあるいはラグビーワールドカップリミテッドの方からの要請をお伺いしながら、設計への協力を委託している技術協力者から工事の工程が長く必要であるとの情報もあつたことも受けまして、現在実施設計において設計内容を調整しております。

ありがとうございます。

○蓮舫君 分かりやすく答えてください。

今、二つの契約した建設会社と建築計画の見直しをしています。屋根先送り、椅子は仮設にする、まだ出るんですか。

○参考人(河野一郎君) この七月にまたIOCの調査委員会が参ります。そこで何かの御指摘が出れば、それについて対応できるものであれば、それについては柔軟に見直すことができればと思っております。

○蓮舫君 建築計画の変更はあるんですか。

○参考人(河野一郎君) 実施設計について、そこに織り込むものについてはそのようにしたいと思っております。

○蓮舫君 つまり、まだ見直しをするところがあるという説明を私は伺っています。

この東京オリンピック、二年前IOCに提出した立候補ファイルでは、会場に関してこういう記述があるんです。「日本の建設プロジェクトは、質の高さと期日の厳守で知られており、競技会場がスケジュールどおりに完成されることは確実にある。」と明言。大臣、もうこれ守られてないじゃないですか、うそじゃないですか。

○国務大臣(下村博文君) ですから、確実に間に合うように二〇一九年春竣工に向けて今調整しているところであります。

○蓮舫君 期日を守るためなら中身はどんなに変えても構わない、これが国際的信用を得られるかどうかというのは、本当によくお考えになった方がいいと思えますよ。

河野理事長に伺いますが、何が原因でこれ計画

を変えているんですか。

○参考人（河野一郎君） 今申し上げましたけれども、一つは、繰り返しのように恐縮ですが、二〇二〇年のオリンピック・パラリンピック大会に向けまして、IOCから実際に調査委員会が来て、ここについてはこういうふうにしてほしいかというところを、実際に御要望を受けております。詳細についてはここで触れることは避けたいと思います。それから、ラグビーのワールドカップについても同様の、つまり国際委員会の方から御指摘を受けております。そういうものについては、やはりなるべくいい大会にしたいということがありますので、可能な限り変えていきたい、現在のものをより良くするものであればしたいというふうを考えています。

それと、御案内のように、工事工程が長く必要であるという部分についても、技術協力者の方から御指摘を受けましたので、これについても真摯に受け止めて、その方向で現在実施設計について見直しているところでございます。

○蓮舫君 理事長、違うんじゃないですか。

確かに、IOCから指摘をされて見直しをするところはあるでしょう、現実的に。ただ、今見直しをして、更に見直しを進める箇所を探っているのは、二〇一九年のラグビーワールドカップ、二〇二〇年の東京オリンピック・パラリンピックに

工期が間に合わない、かつ予算が膨らんでいるからじゃないですか。

○参考人（河野一郎君） 御指摘のように、工期についても、あるいはコストについても、以前から、御指摘いただいたことについては真摯に見直しを常にしながらここまで来ております。

○蓮舫君 去年の七月に千六百二十五億、これを上限に新国立競技場を建て替えるとしました。幾らに膨らんでいるんですか。

○委員長（水落敏栄君） 河野参考人によろしいですか。

○蓮舫君 はい。

○参考人（河野一郎君） この価格につきまして、現在契約段階でいろいろ折衝中でありまして、関係のところも多いものですから、ここでは控えさせていたただきたいと思えます。

○蓮舫君 いや、情報公開してください。

そもそも去年の七月に上限を千六百二十五億円と試算したときには、消費税は五%で計算しているんです。つまり、もう消費税は八%に、あるいは先送りされましたけれども、二〇二〇年度には一〇%になるといのは去年分かっていました。なのに、五%で試算をしているということは、あえて低く試算を抑え過ぎたんじゃないですか。

○参考人（河野一郎君） 意図的に抑えるということではなく、あの時点での計算をしたものでござ

います。

○蓮舫君 屋根先送りというのが分かったのはいつですか。

○委員長（水落敏栄君） 河野参考人、お答えできませんか。

○参考人（河野一郎君） 屋根先送りというのは、屋根というよりは、多分ここでお話されているのは開閉式の遮音装置の話というふうに理解をさせていただくとすれば、この三月ぐらいのときに少しそういう情報が参りました。

よろしいでしょうか。

○蓮舫君 一月から二月と聞いていますが。

○参考人（河野一郎君） どの時期をもってということは、そういう情報については我々の方も現実的にいつも検討しているものですけれども、具体的な話として情報が来たのは三月ということになります。

○蓮舫君 三月に確定をして、屋根はもう間に合わないから付けない、あるいは椅子も変える。でも、それから二か月、国民にも都民にも全く情報は公開されなくて、そして内部で隠され続けている。こんな状態で、四十二か月の工程でこの秋から二〇一九年の春までに本当に千六百二十五億円が新国立競技場はできるんですか。

○参考人（河野一郎君） 工期につきましてもコストにつきましても、今申し上げたようなところ

で、現在、契約の段階でいろいろ折衝しているところでございます。

○蓮舫君 屋根がない、免震なしの横浜国際アリーナは実際に建築に四十二か月掛かりました。新国立競技場は最も多くの高度技術を要する。建築家からは、去年、自民党の行革推進本部で、最低でも五十か月掛かるという指摘を受けているんです。本当に四十二か月でできるんですね。

○参考人(河野一郎君) さっき大臣がお話しされたように、ラグビーのワールドカップに間に合うような工期で鋭意努力しているところでございます。

○蓮舫君 間に合わなかったらどうします。

○参考人(河野一郎君) 今、間に合うような努力をしているところでございます。

○蓮舫君 これも建築家グループ、榎文彦さんが自民党の行革推進本部で指摘をしています。去年の秋の段階で建設市況は月一%高騰をずっと続けている。これは、安倍内閣になってから財政出動、公共事業にじゃぶじゃぶお金が流れているから、被災地もこれ大変な影響を受けていますよ。全国でこういう状態になっているときに、東京も例外ではない。去年の段階で二千億圓に膨れている。舛添東京都知事も二千五百億を超えていると言われています。幾らになるんですか。いつ判明しますか。

○参考人(河野一郎君) 先ほど申し上げましたように、額につきましては、現在、設計者を含めて契約中の前段階でございますので、そこについてはここでは控えさせていただきますと思います。

○蓮舫君 じゃ、確認します。千六百二十五億は上限ですね。

○参考人(河野一郎君) それも含めてここでは控えさせていただきます。

○蓮舫君 じゃ、オリンピック後に建設するとなつた屋根は千六百二十五億の内数ですか。

○委員長(水落敏栄君) 河野参考人、答弁できませんか。

○参考人(河野一郎君) 予算価格のときで基本設計において試算したものについてはその内数という理解をしております。

○蓮舫君 真摯にお答えいただいているんですけども、中身が全く正直じゃありません。四十二か月でできるんでしょうか。千六百二十五億は、今の建築市況のこれだけの値上がり、高騰、人材不足あるいは資材の高騰で守られるんでしょうか。全体的において答えられない、守るようになっていく。情報が余りにも不透明だから不信感を招いているんです。

大臣は去年、十月十六日の衆議院文科委員会で我々の中川議員からの質問に対して、新国立競技場は二〇一九年に絶対間に合わさなければならな

いので、間に合うよう、文科省として、JSCに適切な指導、増員の派遣等をしながらかちつと対応していくと答弁しました。

どんな責任の行動を取られたんですか。今の答弁で満足されましたか。

○国務大臣(下村博文君) まず、具体的な設計者との今回の契約については、六月末までには見通しが付くのではないかとこの報告は受けております。

ですから、現時点において、今設計者側とこのコストの部分、費用の部分については交渉している最中でありますから、これは今時点でこれは述べられないというのは、別に隠しているとかそういうことではなくて、これはもうそのとおりの話だと思えます。

その中で、二〇一九年春の竣工、これは先ほど申し上げましたように、私の方にも今年の四月になつて、現状どおりしていると間に合わないというのを設計者側から話が来たということで、間に合わせるために、屋根といますか、これはその観客席の屋根は現状維持であります。競技場の芝生の上のところについてがこの開閉式遮音装置であります。これはオリンピック・パラリンピックやラグビーのときもこれは開いていますから、基本的にはこの開閉式遮音装置がないというのはラグビーやオリンピック・パラリンピックに

は全く影響ないことでありますので、そういうようなことを二〇二〇年以降に着工する、あるいは可動式の常設を仮設にするという、そういうコストダウンを今図っているところでありますので、二〇一九年の春の竣工に合わせるような、そういう文部科学省もJSCに対してしっかりとしたフォローアップをしていきたいというふうに考えております。

○蓮舫君 いや、しっかりとしたフォローアップをしていないからこういう事態になっていると思うんです。大臣として責任を取った行動は何ですかと伺ったら、今全く答えがありませんでした。私は、むしろ大臣の方が混乱を深めているように思います。

これ驚きました。五月十八日に舛添都知事と大臣が会談をしました。舛添さん、知事に就任して十五か月、この時点で初めて大臣から東京都に費用負担の協力要請が来た。何ですか。

○国務大臣（下村博文君） これは、私の立場からすれば、今までも東京都、特に舛添知事に対してそのような話を申し上げたいと思っておりますが、今東京都そのものが限られた予算の中で競技場の独自に建設するということに対して、コスト等が上がっている中で、それをまずは精査しなければ、とても国立競技場の東京都の負担についてこちらの方から要請するような段階ではないと

いうことを事務方から、これは東京都と話しながら聞いておりましたし、私もそのように承知をしております。

東京都における独自の競技場、かなり臨海部に建てる予定がありますが、そういうことが大体整理が付いたということの段階で正式に要請したものであります。

○蓮舫君 大臣、二〇一三年十二月二十四日、前の猪瀬さんのお辞めになった日に記者会見をして、大臣、こう言っています。東京都については、都議会と私の方で直接話しまして、一応、五百億は東京都の方でも出すということで、内々には了解をもらって準備を進めております。これ、内々って何ですか。誰に了解を取ったんですか。

○国務大臣（下村博文君） 正確には、私は、都議会、都議会議員でありまして、自民党の都議会議員の方々とそういう話をしていたということがあります。

○蓮舫君 自民党の都議会議員と話を内々に承諾を得ると、それは都として五百億出すという確約ですか。

○国務大臣（下村博文君） そういうふうには一言も申し上げておりません。

○蓮舫君 いや、その前の答弁で、都議会の自民党の人と話して内々に承諾を得ている。それは、都議会の議会を無視して、それで五百億の内々の

了解になるんですね。

○国務大臣（下村博文君） そういうことを申し上げているわけじゃありません。

これは都議会の当然了解も必要ですし、もちろん東京都も負担するという意思がなければ進まないことではありますが、自民党の都議会議員の方々とそういう話をしたということでもあります。

○蓮舫君 都議会を相当冒瀆した発言だと思えますよ。

東京都にお伺いしますが、この五百億を都が負担するのは内々に都議会が承諾をしていると大臣がおっしゃいましたが、都として把握するうわさの根拠って何か具体的にありますか。

○参考人（中嶋正宏君） 東京都のオリンピック・パラリンピック準備局長の中嶋でございます。国立競技場の整備に係る費用の都負担につきまして、舛添都知事に下村文部科学大臣が正式に要請をされましたのは五月十八日の面会が初めてでございます。その際、費用の一部負担のお願いがございましたが、具体的な金額の要請はございませんでした。

都としては、猪瀬前知事の時期に、下村文部科学大臣が平成二十五年十二月二十四日の記者会見で都の負担五百億円との御発言がございまして、これに伴い、都議会でも都の一部財政負担について取り上げられましたことから、巷間五百億円と

言われていることは承知しております。

なお、根拠というお尋ねでございますが、それ以前の問題としまして、一部財政負担につきましても、これまでの間、都の事務レベルで課題などを検討し、現行の地方財政制度の下におきましては金額のいかんにかかわらず国の事務に対する支出には制約があることや、財政支出に当たっては都民の十分な理解が必須であるということなど、課題が非常に大きいということを事務レベルで国の方にはお伝えしてきていますところでございます。

○蓮舫君 もう一つ確認させてください。建設費工期、具体的な協力要請の額、根拠、明細書は国から提案されていますか。

○参考人（中嶋正宏君） 大臣と知事との面会におきまして、開閉式の屋根について二〇二〇年オリンピック・パラリンピック大会後に設置することや、観客席について可動席を仮設化してコストダウンを図ることなど、大臣からそのとき初めて伺ったところでございます。

その際、知事から大臣に要請がありましたように、まずは計画変更を踏まえた建設費や工期について現在国に詳細な説明を求めているところでありまして、具体的な協力要請の額、根拠、明細書につきましては国から正式な提案はいただいておりません。

○蓮舫君 いや、今聞いて分かるように、つまり

東京都には正式に文科省から何の要求も協力依頼も要請も公的文書がない、額もない、明細書もない。そして、もう大臣は東京都民自民党のひと話をして、内々承諾を得ている。談合政治じゃないですか。これ、お金を払うのは大臣じゃないんですよ。東京都民だし、国民です。

情報公開をしなければ何も進まないと思いますが、大臣は知事に対して、批判するのは簡単だが、自分も開催都市の知事だと自覚、一緒にやろうという思いを持ってもらいたいと思いますねと言及しました。舛添知事が問題なんですか。

○国務大臣（下村博文君） まず、先ほど申し上げているように、別に都議会に了解を取ったということは一言も申し上げておりません。それは是非訂正していただきたいというふうに思います。

それから、今お話がありましたように、私の方から正式に都知事に対して金額でお願いしているわけではありません。ただ、国立競技場はオリンピック・パラリンピックの開会式、閉会式、メイン会場でもあるわけでありまして、そういう意味で東京都が裨益する部分もありますので、できるだけ協力をしていただきたい。

ただ、具体的な額については、これは先ほどJSCの河野理事長からも話がありました。まだ設計者との関係で確定している額が出ているわけではございませんから、これが出た段階で、正式

に文部科学省としても東京都に対して、額それからその積算根拠等を詳しく詳細に出すことによつて、正式に交渉を進めていきたいと考えております。

○蓮舫君 私も都議会の了解を得ているとは一言も言っていない。大臣自らが五百億は東京都の方でも出すということで内々には了解をもらって準備を進めていると会見で言っている、東京都に確認したら、そういう要請は来っていない。大臣に先ほどお伺いしたら、都議会自民党の人とそういう話をして、だから談合じゃないですかと指摘をして、私は大臣が言っているような都議会の了承を得ているとは決め付けていません。

その上で、正式な額が確定したら、それはしっかりと公開をしていく。

是非、委員長にお願いしたいんですが、文科委員会にもその資料はすぐ提出をしていただきたいと思えます。

○委員長（水落敏栄君） ただいまの発言については後刻理事会で協議をいたします。

○蓮舫君 ありがとうございます。

正式な額が確定しない。五百八十億とは何ですか。

○国務大臣（下村博文君） それは、私が舛添都知事にお会いしたのが五月の十八日でしたが、文部科学省の中で、これから東京都に対して正式に

要請する以前の段階として、今現在における東京都に要請をしたいその積算の一つとして総理のところの説明に行ったところであります。

ただ、それは先ほど申し上げましたように、まだ流動的な部分もありますので、確定したものはありませんし、ましてや、東京都に持つていくということであれば、そのまんま持つていくということではなくて、あくまでもこれは政府内における現段階における検討状況についての途中報告をしただけであります。

○蓮舫君 途中報告でも公開すべきだと私は思っています。しかも、五百億が五百八十億にいきなり跳ね上がっているんです。

昨日、舛添都知事はブログでこう書いてあります。

会談から三日後の五月二十一日、文科大臣は官邸に行き、五百八十億を都が支出すべきだという文書を安倍総理に提出している。正当な根拠のない支離滅裂な理由を掲げた上での数字である。例えば、十八日に大臣が座席の一部を仮設するとしたにもかかわらず、それ以前の計画の可動式豪華な座席にする。

その額で試算をされている、そういう数字なんですよ。

これ、舛添都知事の言っている指摘、正しいですか。

○国務大臣（下村博文君） まず、東京都に提示する前提の資料ということで持つていったわけでは全くないということでありませぬ。

首相官邸への報告については、新国立競技場の整備方針の見直し状況や、東京都の資金負担について、現時点における政府内の検討状況について報告したものでありまして、御指摘の金額はあくまでも国としての立場で仮に費用を積み上げた試算でありまして、その額をそのまま東京都に提示するという前提で作成したものではありません。

ですから、東京都に提示するときには、改めて先ほど申し上げましたような積算根拠をつくって、そして先ほどお話がありましたように、私の方から具体的にまだ東京都に対して金額等の要請はしておりませんので、それをつくってやろうということ、今最中でありませぬから、五百八十億ということが決まったということでは全くありません。

○蓮舫君 私が質問しているのは、五月十八日に椅子を手動、仮設に変えるとした、このことによつて工期も試算も圧縮できるんです。でも五月二十一日に総理に説明している紙では、その圧縮する前の豪華な自動式のシートの見積りで計算をされている。何で見直したものを持つていっていいんですか。

○国務大臣（下村博文君） ですから、見直し

た最終的な資料を持つていったわけではなく、今時点における積算根拠だということになるというのであります。これは先ほどから申し上げていきますように、今JSCにおいて設計者との費用についての積算根拠や積み上げについては協議している最中でありませぬ。その詳細の出身について私もまだ聞いておりませぬ。

ですから、文部科学省として把握している時点における数字でありまして、仮の数字ですから、それ自体が全く東京都に対する資料として使うという前提で説明をしたわけでは全くありません。

○蓮舫君 大臣、もうちょっと責任感を持つた答弁をしてもらえませぬか。

御自身が五月十八日に、屋根先送り、椅子も変える、工期を短くして金を圧縮するという発言をして、まだ見直しをしているというのに、その三日後に総理に説明に行ったときには、その前の豪華な、膨らむ、工期も遅れる、その段階で説明して、今これが最新の見積りですというのは余りにも不誠実じゃありませんか。

しかも、それが官邸から漏れて、舛添都知事に行つて、舛添都知事が東京都知事として発信をする。国と都が歩調が取れていないということは一〇〇に対する不信感にもつながりかねない。

しかも、元々は、全てスペックそろったままで東京オリンピックを開催する国際公約として東京

オリンピックは招致に成功しているんです。それがお金の理由でどんどんどんどん小さくなっていく。最初はコンパクトオリンピックだったじゃないですか。それ今、北海道でもですよ。あるいはIOCに言われて、今度、蒲郡に行くかもしれない。どこがコンパクトですか。

見直しがどんどんどんどん重なっていったら、本来約束したものができるのかも分からないことを私たちは危惧しているんです。だから、情報公開をしてくださいと言っているんです。

委員長、五百八十億の積算の見積り、それも是非提出していただきたいと思えます。

○委員長（水落敏栄君） 後刻理事会で協議します。

○蓮舫君 政府、JSC、組織委員会、建設会社、内部で調整をしています。ところどころが漏れて不安感をあおっています。でも、JSC会長も大臣も、二〇一九年ラグビーワールドカップには間に合わせる、二〇二〇年のオリンピックには間に合わせる、千六百二十五億、国立競技場の上限も、これも守る。誰が最終責任者ですか。

○国務大臣（下村博文君） まず、二〇一九年の春の竣工、これを前提で今設計者と協議しているところでありませう。

それから、額については、これは業者の方から大幅なアップというのが今来ているそうでありま

すから、これは千六百二十五が守るということが確定できるわけではなく、今協議中であります。

これについては、是非、これは国立競技場ですから、直接はJSCがやっていますが、文部科学省として責任を持ってフォローアップしてまいりたいと思えます。

○蓮舫君 つまり、千六百二十五億がこぼれた場合、負担を負うのは国民ですから、二〇一九年に守られなかった場合に信頼を失墜するのは東京都と日本ですから、それについて責任を持つているのは河野理事長ということよろしいですね。

○国務大臣（下村博文君） トータル的には、これはオールジャパンですけれども、政府が責任を持つ部分はきちっと責任を持っていきたいと思えます。ただ、この国立競技場の建て替えについては直接の担当はJSCであるということ申し上げているわけでありませうが、文部科学省もしっかりとしたフォローアップをしてまいりたいと思えます。

○蓮舫君 責任論が全く分からない。

最後に、一点提案させていただきます。

これ、三十日、先週ですが、建築家の榎文彦氏らが、屋根を支える巨大な二本のアーチ構造が建築費膨張、工期の長さや指摘し、改善案を具体的に提示しています。これだと実は、予算は一千億程度に引き下げられ、工期もラグビーワールドカ

ップまでに必ず間に合うという提言です。

こういう部分も考慮したらどうでしょうか。理事長、いかがですか。

○参考人（河野一郎君） 榎文彦先生を始め、専門家の方々からこれまで工期や建設費などに、技術的な問題について御指摘をいただいております。その都度、真摯に検討させていただいております。JSCとしましては、国立競技場の建設に高度な技術力が必要であるということ、そして完成した暁には最高の建築技術であることを世界に発信できるものということで認識しておりますので、実施、設計段階から施工者サイドの持てる経験、ノウハウを基に技術提案を求めると英知を集めて、文部科学省、設計者、技術協力者と一体となって工期、コストの短縮、縮減に今取り組んでいるところでございます。

ありがとうございます。

○蓮舫君 引き続き、この問題追いかけてしたいと思います。

ありがとうございます。

○斎藤嘉隆君 民主党の斎藤嘉隆でございます。

今の国立競技場の問題について、もう少し確認をさせていただきたいというふうに思います。

先日ですけれども、オリンピック・パラリンピックの特措法が制定されました。オリパラ担当の専任大臣が置かれるということでありませう